

第291回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成24年9月24日（月）午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員5人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
福島 聡	委員	碓井 真史	委員
尾畑 留美子	委員		

会社側出席者

代表取締役会長	前川 磐
代表取締役社長	室川 治久
専務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
取締役（報道・制作・国際担当）	水島 敏夫
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	竹石 尚史
報道制作局長兼報道部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
制作部長	小木 裕介
合評番組プロデューサー	鈴木 英門
事務局	海津 智洋
	紫竹 聡子

4 議 題

1) 番組合評

「夕方ワイド新潟一番コーナー『がんばる新潟人』
カラープレゼンツニッポンコレカラプロジェクト

第1話」〔放送：2012年6月10日（日）13時26分～13時30分〕

「同 第2話」〔放送：2012年7月8日（日）13時26分～13時30分〕

「同 第3話」〔放送：2012年7月22日（日）13時26分～13時30分〕

「同 第4話」〔放送：2012年8月12日（日）13時26分～13時30分〕

（説明：番組プロデューサー 鈴木 英門）

2) 会社報告

① 10月期の番組編成 （報告：編成部長）

② 7月、8月の視聴者の意見。 （報告：番組審議会事務局）

② 講じた措置、公表など定例の報告等。 （報告：番組審議会事務局）

3) その他

5 審議の概要（委員の意見）

会社側から、この番組は夕方ワイド新潟一番のコーナー「がんばる新潟人」で紹介した「Akiha 森のようちえん」園長：原淳一さんをミニ番組・YOU TUBE・30分特番など複数メディアミックスで全国に発信した企画の内のミニ番組シリーズであること、TeNYがトヨタカラーのコレカラプロジェクトに参画し各県から一人ずつ選定される「これから羽ばたき頑張る人『コレカラパーソン』」の新潟代表に原さんが選ばれたこと、各県代表とともに全国のコレカラパーソン紹介専用ホームページに新潟の原さんの「Akiha 森のようちえん」の活動ビデオクリップ

をアップロードし、その YOU TUBE の WEB 上から FACE BOOK へアクセスできるように複数メディアで連携して新潟から発信していること、それらプロジェクト全体とコレカラパーソン原さんの活動を県民に紹介するために番組制作したものであることなどを報告した。

●「森のようちえん」という清々しい映像が心に残ったし、文字テロップでキーワード的な良いメッセージが必要な時に必要なだけ効果的に出てきていて良かった。

●映像が綺麗だと思った。今までの番組と少し作り方が違い何かのコマーシャルのような、または映画の予告篇的な印象を持った。「コレカラ」ってなんだろうと思って見ていた。

●意外に大人でもなかなか知らないような自然の姿を見せてくれていると思った。

●Facebook などのツールを使ってこれから新しい新潟の魅力を全国へ発信できるのはとても楽しみだと思う。今回の番組関連企画だけでなく、これから SNS や番組を通じてどのように展開していくのか注意して見ていきたいと思った。

●4分番組を何回か連続して見てしまうと安全面や法律的な余計な心配ごとが出てきたりするが、番組を1回4分だけ見れば細かいことは気にせずに良い感じだけで見ることができた。ミニ番組のシリーズ全部を見ていなくても、たまたまある1回放送分だけを見ても「こういう人がこういうことをやっているんだ」ということがわかるような作りになっていると思った。

●みんながいつも同じ番組を毎回毎週必ず見ているという時代でもなくなっている。短く編集したものをちょこちょこ小刻

みに放送してくれていて、それらを見ていて気になりはじめるあたりでそれらの集大成的な特番を放送してくれるというやり方は新しくて面白いと思った。

●こうしたヒューマンドキュメンタリ的な番組で更にホームページへ「詳しくはWEBへ」と誘導し、そこで更にFacebookにアクセスできるというのを番組でアピールするというのも今までに無いことで珍しいと思った。

●子供たちに「前向きに」とか「元気に生きていこうよ」と教えるときは、如何に実際のモデルを示すことが出来るかが重要になってくる。偉人やスーパースターではない地元で身近にいる実際のモデルを地元テレビ局が「こういう人がいて、こういうことをやっているんだ」と紹介するのはとても分かりやすく良いことだと思う。

●原さんを紹介するとき「みんなで応援したいよね」というような感じで決して押しつけがましくないのが良い。原さんのコメントも強い口調ではなく「～すべきだ」という主張めいたものでもないのが良い。見ている側に「こういうのは良いよね」「こんなふうにコレカラの思いを持って活動していくのは良いな」と感じさせてくれる番組だと思う。

●番組としては人間ストーリーなので主人公についての説明が不足していると思った。

●メディアミックスの企画であることはわかるが、番組だけではわからない原さんのプロフィールなどはWEBや特番などのプロジェクト全体を見る必要がある。原さんが森のようちえんをやりたいと思ったきっかけは何だったのかなど、やはりもっと詳しく知りたいことが出てきた。

● 4分の短い番組で印象に残ったのは映像が綺麗だということ、近代化されているところが全くと言っていいほど無いこと、そして自然の中で子供たちの生き生きとした姿が良く出ていたことだ。

● コレカラパーソンの原さんが主人公になり過ぎていないのが良かった。原さんの説明やコメントはごくわずかで、子供たちの元気な姿や自然の中で育っていく様を追いかけているのが良かった。

● 子供たちは集団でやるとうまくいかないものだ。自己主張のぶつかり合いになるところを原さんがどうやって教え、見守って活動しているのか、コレカラどうやっていくのかは映像では良く分からなかった。主役の半分である子供ひとりひとりのクローズアップが多く、集団としての子供たちへの接し方をもう少し詳しく見て見たかった。

● 子供が虫に触れていることに感心した。今日虫に触れる子供は少ないし親がなかなか触らせないように思う。

● 「次世代のためにやる」という原さんのポリシーとなるキーワード的なものが、もっとわかりやすく番組全体を通して出ていれば良かったと思った。

● 地元には頑張って羽ばたいていこうとしている素晴らしいコレカラパーソンがたくさん居ると思う。視聴者がなかなか知ることができないそれらの人たちを紹介してくれるのも地方テレビ局の役目だと思う。これからも継続してこうした番組企画で県民に伝えて欲しいと思った。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

7月…… 159件。

8月…… 290件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成24年7月23日)から昨日(平成24年9月23日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置

1) 前回、第290回審議会では「巣立ちの翼 佐渡の空へ～トキと人が暮らす未来～」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧します。

8 今回の第291回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項（委員への配布資料）

- ・7月、8月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・7月、8月の単発番組制作一覧
- ・民間放送新聞（7/23, 8/3, 8/23, 9/3, 9/13号）
- ・BPO（No.112、113）

以上